



自己の生き方・あり方に迫る学び ②

本題にはまだまだ到達できそうにないですが、一つ一つ、必要なことを説明していこうと思います。

今日も、『評価』についての話を続けます。

『相対評価を加味した絶対評価』

って、意味がわかりますか。

それまで相対評価でつけられていた評価が、2002年から、絶対評価に変わりました。それから20年、それは続いています。

相対評価は、学校の集団の中で、どの順位に位置しているかを表すための評価です。それに対して、絶対評価は教育目標における達成度を表すものです。

2002年に突然変わったのではなく、その8年前の1994年から、絶対評価を加味した相対評価から、相対評価を加味した絶対評価への切りかえが実施され、8年間の実践研究が積み重ねられて、2002年からは、絶対評価になっているのです。

しかし、現実とは、違うのです。

『相対評価を加味した絶対評価』によって、中学校の評価がつけられている学校が多いのです。

完全な『絶対評価』によって、評価をつければいいだけじゃないか、その方が合理的だし、その方が簡単ではないのか？ そう思われるのも不思議ではありません。完全な『絶対評価』だったとしたら、数学の成績が全員5だったり全員1だったりということも当たり前になります。しかし、そんなことが起きないのは、その評価が、調査書（内申書）の点数となり、高校入試において重要な意味を持つという背景があるからだと思われます。

完全な『絶対評価』ではなく『相対評価を加味した絶対評価』で、調査書が作られます。

しかし、どれだけ考えても、ほんの少しでも加味した段階で、それは相対評価でしかないという、簡単にわかることを、曖昧にしているのが現実なんです。

教師の主観に左右されることなく、客観的に評価することは言うまでもありません。

先生たちは、本当に、一所懸命にがんばっているんです。

でも、どうしてこんな悲しい状況から抜けられないのか。

それは、『学びのための評価』ではなく『評価のための学び』だからかもしれません。

中等部の理念

新たな価値を創造する力

対立やジレンマを克服する力

責任ある行動をとる力

美しいものについて

高田 敏子

花は咲く 誰が見ていなくても

花のいのちを美しく咲くために

小鳥は歌い 空を飛ぶ

小鳥は小鳥をよこび生きるために

樹は茂る 魚は泳ぐ

樹であり 魚であることのために

人は

人であるそのために生きているかしら？

人は人であるそのことを

いつも思っているかしら？

きのう 私がしたこと

きょう 私がしようとすること

人であるそのことにかたく結ばれているかしら？

樹や花や小鳥や魚のように

人であるそのことを美しく生きているかしら？

樹や花や小鳥や魚を

美しいと ただ見るだけではなくて